

8月31日に令和4年第4回富里市議会定例会が開会いたしました。

新型コロナウイルス感染症については、現在もなお「第7波」の猛威が続いており、市民の皆様には長きに渡る感染予防対策を続けていただいております。

そのような中、本市のワクチン接種の状況は、すでに4回目ワクチン接種が開始され、7月22日からは、「医療従事者及び高齢者施設等の従事者」が、接種対象者に追加されており、8月29日時点の4回目の接種率は千葉県平均が20.24%のところ、本市では22.90%となっています。

また、自宅療養者からご相談があった場合に、千葉県から希望者に対して支給される「配食サービス」が届くまでの間、本市の独自支援として、食糧や日用品の提供と、同居される濃厚接触者の方に対して、希望があった場合に抗原検査キットの配付を行う支援をしております。

支援を開始した令和4年1月26日から8月29日までの期間で、374世帯の方へ支援を行ってまいりました。

今後も引き続き、安心して自宅療養生活を送って頂けるよう、職員一丸となって支援を継続してまいります。

次に、8月6日に予定していた「とみさと夏まつり」につきまして

は、新型コロナウイルス感染症の感染状況から、延期としその後、あらためて開催すべく、実行委員会と検討を進めてまいりましたが、長引く「第7波」の状況や市民の安心安全の確保から、市民の皆様には非常に残念な判断ではありますが、来年度開催に向け見合わせることにいたしました。

また、夏まつりと合わせ実施予定であった、市制20周年記念セレモニー並びに花火の打上げにつきましては、感染拡大の動向を注視しつつ、感染防止対策を取りながら10月を目途に開催できるよう進めておりますので、開催日など詳細が決まり次第、御報告させていただきます。

(1) 末廣農場について

富里市で初となる観光・交流拠点施設「末廣農場」は、公益性と収益性を併せ持つ施設として、多くの期待の中でオープンし、現在のところ約9万2千人に御来場いただいております。

公益性においては、富里市の新たな目的地からも、更なる広がり of 要素を秘めているとともに、市のイベントはもとより、市民の発表の場の提供など、日常的に様々な場面での活用が始まってきております。

一方で、収益性においては、オープン当初より指定管理者と根本的な相違点が生じており、実地について調査を繰り返しながら、必要な意見や指示を申し伝えております。また、市民ニーズも踏まえ、末廣

農場に求められる施設機能にするためにも、効果的で効率的な達成方法を、部分最適ではなく、全体最適とするために、指定管理者自らの全体評価に加え、市の評価も実施し、民間と行政で、相互の強みを一体的に発揮できるよう、取り組んでいるところです。

市民の皆様には大変にご心配をおかけし、また皆様から寄せられたご意見やご提案は貴重なものばかりとなっております。末廣農場は、市民あってこそその施設であることから、一日も早く満足いただける施設となるよう全力で取り組んでまいります。

(2) 新たなデマンド交通について

鉄道駅のない本市において、充実した市民生活における移動手段を更に充実させるため、市外乗降ポイントの「京成成田駅」など含め、乗降ポイントの増設、「365日運行」など、市民の皆様が利用しやすいよう、10月1日よりリニューアルいたします。

また、令和4年6月末までの利用登録者は、1,609人のところ、7月1日から新たなデマンド交通の周知を開始してから、8月23日までの間に、新規登録者として240人の登録が行われ、全体で1,849人と、登録者数は順調に増加しております。今後も、引き続き運行の変更点など、丁寧に説明し、新たなデマンド交通の周知に努めてまいります。

(3) 都市計画提案制度による企業立地について

歳入改革の強化として、産業候補地の受け皿づくりを進めるための施策の展開により、企業誘致に取り組んでいるところです。

これまで、「市街化調整区域における土地利用方針及び地区計画ガイドライン」の改定や「企業立地促進条例」を制定するとともに、市街化区域内の用途地域を大幅に見直すなど、成田国際空港の機能強化による、産業集積や従業人口等の増加に対応した土地利用の誘導を目指しております。

そのような中、インターチェンジ活用型の地区計画ガイドラインに沿い進められてきた、酒々井インターチェンジ前の、国内最大級の木材市場である「東京中央木材市場 株式会社」が、本年11月に工事が完了したのちに、12月に本社移転の運びとなってきております。

この他にも、複数の企業からの立地計画も進められている状況であり、今後も引き続き、本市の産業振興の充実や雇用の拡大が図れるよう、土地利用の増進とともに企業誘致の促進に取り組んでまいります。

(4) 日吉倉桜小路地区整備について

日吉倉旧村会との「新池訴訟」において、令和4年2月に判決が確定したことから、「新池に関する合意書」に基づく日吉倉桜小路地区施設整備のうち、特に、消防機庫においては、老朽化が著しく、ポン

プ車の耐用年数から更新が必要でありながら、新たな規格の車両の格納が困難になることが見込まれております。そのような事から、地元消防団の意向も確認の上、地域の安心・安全を第一に、合意書の最優先事業として市の判断により、消防機庫の整備に向けた必要な経費を、補正予算（案）としてまとめさせていただいておりますので御審議くださいますようお願いいたします。

（５）図書館の複合的な機能による発信拠点について

「情報・文化・芸術」の発信拠点として、令和４年１０月１日にリニューアルするとともに、施設名の愛称を募集し、応募６２作品の中から、小学５年生の児童が「富里・未来・テラス」をイメージし考案した「とみらいテラス」に決定しました。

今後は「富里市立図書館」から「富里市立図書館 とみらいテラス」として、多くの皆様に親しまれるよう、努めてまいります。

また、図書館を核とした、新たな学びによる市民の主体的な活動の場とするため、これまでの図書館機能に加え、生涯学習機能の文化・芸術を融合させ、様々な取組により楽しく学べる施設として、本年度から順次、事業を進めてまいります。

図書館の機能強化としては、１０月から、芸術作品に触れ合える機会の創出として、館内に市民ギャラリーや企画展示を設置し、版画家や刺繍画家など様々な芸術家の作品展示を予定しております。

また、館内には、飲食しながら読書を楽しむことができるよう、新

たに、障害者福祉施設による軽食などの販売や、飲食や読書を楽しむオープンテラスを開設いたします。

今後も引き続き複合的な機能をいかし市民生活を豊かにし、ともに成長する施設として、活用を図ってまいります。

(6) 富里市観光PRについて

東京駅から1時間程で訪れることのできる富里市を知ってもらい、新たな観光・交流拠点施設「末廣農場」を通じて市へ訪れるきっかけとなるよう、高速バスに市の魅力を発信するラッピングを施し、8月25日から匝瑳・東京駅間を運行しております。

高速バスへのラッピングデザインは、包括連携協定を締結している日本大学芸術学部のデザイン学科及び写真学科に制作していただきました。

デザインのコンセプトは、特産品の「すいか」や日本有数の生産量を誇る「にんじん」といった、「味わいの里・富里市」を象徴する農産物と、新たな観光・交流拠点施設である「末廣農場」を使用したデザインとなっており、令和5年3月まで運行を予定しております。

(7) 「とみさとファンクラブ」について

令和4年4月から会員の募集を開始し、市制20周年を記念して、3,000名限定で発行する限定会員証は、7月初旬の段階で申込者

数に到達し、8月23日時点では、4,098人の方にお申込みいただいております。

また、7月末までに登録された会員の皆様を対象に、本市のPRとして、9月9日に富里の農産物が当たる抽選会を実施するなど、今後も、本市の様々な情報を配信するメールマガジンの更なる充実を図り、会員の皆様と共に、この富里を盛り上げてまいります。

(8)「秋まつり」について

これまで、秋を中心に、各実行委員会等で実施していた、福祉まつりや産業まつりなどについては、各々の負担の大きさや、長引くコロナの影響から中止などによる状況の変化も踏まえ、昨年度から、各実行委員会等の事務局間で、合同による開催の検討を進めてまいりました。その結果、次の時代も見据え、「秋まつり」としての合同開催に向け、新たに代表者会議を設置し、準備を進めておりますので、詳細が決まり次第、御報告させていただきます。